

令和2年度第1回総合教育会議 議事録

1 開催日時

令和2年5月27日(水) 13:30～15:00

2 出席者

(1) 構成員

市長	園田 裕史
教育長	遠藤 雅己
教育委員	渡邊 敬
教育委員	佐古 順子
教育委員	嶋崎 真英
教育委員	中嶋 剛
教育委員	前田 愛

(2) 説明者

教育政策監	西村 一孔
教育次長	吉村 武史
こども未来部長	山中 さと子
教育総務課長	三岳 和裕
学校教育課長	橋口 智秀

(3) 事務局

企画政策部長	渡邊 真一郎
企画政策課長	石山 光昭

3 協議

- (1) 新型コロナウイルス感染症に伴う今後の対応について
- (2) GIGA スクール構想について

4 その他

5 閉会

[資料]

- 1 新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校行事等の変更予定
- 2 令和2年度大村市立小・中学校 年間行事予定
- 3 GIGA スクール構想

企画政策部長 渡邊 真一郎

定刻となりましたので、ただ今から令和2年度第1回総合教育会議を開催いたします。本日、司会を務めます大村市企画政策部の渡邊でございます。本年4月の異動により企画政策部長を務めさせていただいております。どうぞよろしくお願いたします。

それからKTN様から撮影のご依頼がっておりますので、許可することで宜しいでしょうか。

それでは、会議に入ります前に、お手元の資料のご確認をお願いいたします。配布しております資料は、会次第と資料1「新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校行事等の変更予定」、資料2「令和2年度大村市立小・中学校年間行事予定」、資料3「GIGAスクール構想」になります。それと本日配布しておりますのが、「大村市GIGAスクール構想」、以上4種類でございます。資料の不足等はありませんでしょうか。

それでは、会次第に沿って進めてまいりたいと思います。開会に当たりまして、大村市長園田裕史がご挨拶を申し上げます。

大村市長 園田 裕史

皆さんこんにちは。本日は令和2年度第1回総合教育会議に大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、私市長に就任しましてから、この総合教育会議というものが全国的に始まっているのですが、ありがたいことに大村市の総合教育会議は、他の市町の総合教育会議の状況は知りませんが、毎回傍聴の方がたくさんお越しいただいて、報道機関の方も取材にきていただいております。本当に大村市の教育に関してこういった形で関心を持っていただいていることに心から感謝を申し上げます。また、教育委員の皆さんにおかれましては、特にこのコロナ渦の中で、3月の臨時休校、4月の臨時休校に対しまして遠藤教育長を先頭に臨時の教育委員会等を開催していただいて、迅速な意思決定と、迅速な対応ということにご理解とご協力をいただき

まして、心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。繰返しになりますが、お陰様で3月の時は学童施設を朝から利用するというところで、何とか子供たちの保育や、家庭保育、家庭で保育をしてくださいというご協力もいただいて、3月の臨時休校をしのぐことができました。また、4月の緊急事態宣言の後は、今度は学校現場で保育をするということで、初めての取組だったんですが、ここについても現場の先生方が迅速に対応いただいたということで、この緊急事態宣言の臨時休校を乗り越えることができました。併せて遠藤教育長をはじめ教育委員会の皆さん、また新しく4月から着任いただいた西村政策監を中心に、現場と教育委員会の連携のもと、対応できたことを心から感謝申し上げます。ありがとうございます。その中で全国、特に都市圏では9月入学の件が協議されていたり、オンライン授業、オンライン教育といった協議もなされています。その中であって、大村市としてはまずもって以前から教育委員会の皆さんのご理解のもと、学校から配布されるプリント、課題に加えてeライブラリーという、オンラインではないのですが、インターネットの環境を使ったeライブラリーコンテンツ、いわゆるネットの教育コンテンツというものをしっかりと整備していたこと、これが本当に大きかったと思います。併せて遠藤教育長から4月の臨時休校の際に、ケーブルテレビさんと連携をしたテレビを通したテレビ学習授業、こういったことにもALTの先生方が協力していただいて、実際に顔なじみの先生方がテレビ画面に映るということで、より教育意欲を高めるといった、県内では他の市町では多分なかったと思いますが、こういったことを充実させながら取組んできています。ケーブルテレビさんでこの放送が継続されています。こういったことをやってきたことが非常に大きかったかなと思っております。併せて今年度から新しい3学期制度に変更になったということで、特に不足する学習時間の確保という意味において、

早々に7月31日まで授業をやるという形で夏休みを活用した授業、それと新しい3学期の中で取組まれていた、当初から夏休みの期間を他の市町よりも4日間夏休みが少なく、4日間前倒して授業を再開するということが決定していましたので、ここでも授業数の確保ができるように大村市は対応ができています。こういった一連のことがしっかり前もって結果的に対応に繋がっていることにも、本当に教育委員会の協議の中での決定にわれわれ大村市としても感謝申し上げたいと思っております。今後については、後で詳細の説明があると思いますが、いろいろな形の中で行事が変更になったりすることもあろうかと思えます。一番は子ども達の学びの機会をしっかりと確保するということと、学習の新ルールをしっかりとあげていくということ、これに結果として授業数が減っている訳ですから、しっかりと対応していくことを今後大村市としても進めていかなければならないと考えております。加えて文部科学省が提唱しているGIGAスクール、ここについてもオンライン授業、オンライン教育、こういった環境整備を整えていくことを前倒して本日説明をさせていただきますが、来たる6月議会にこの議案の上程をして、議会の中でもご議論いただきたいと思えます。私としては特にこれまでもそうですが、学校現場からの課題、教育、紙、プリント、こういったことの学力向上、また習熟度、こういったことに対する取組を進められてきました。インターネットを使ってもここ4、5年やってきています。ここに加えてオンライン授業、オンライン教育を活用する訳ですから、どういった活用の仕方が子供たちにとって適切なのか、せっかくこうやって多額の資金を投じて環境整備する訳ですから、手元にタブレットが行き渡った時には、しっかりとその教育のシステムと教育の内容を提供できるように準備をしていきたいと思っておりますので、併せてそういったこともご議論いただければと思います。これから先は私の持論なのですが、特に幅広い年齢層

と、幅広いお立場の中で教育委員の皆さんは構成されていますから、タブレットがあれば学力が上がるとか、タブレットを活用すればやる気が上がるとか、こういったことだけではないと思っております。タブレットが無くてもそういったことを整備していかなければならないと思っておりますし、タブレットがあることによって興味関心が高まり、学びの深さというか習熟度が上がるということがあろうかと思えます。単にタブレットさえあれば良いんだとか、GIGAスクール構想で進めているような内容で意図しているところ、目的としているところを事前に協議をしてしっかり子供たちに、また学校の先生方にそのことが伝わるようにしなければ全く意味がないと思っておりますので、このGIGAスクール構想が始まって、正直数年前に取組まれていたパソコン教室、パソコンを小中学校に配備しているんですが、これにも多額の税金を投じてパソコンを配備している。ところが今確認するとなかなかそのパソコンは活用されていないという状況であると。5年後にこのGIGAスクール構想が全国に定着した時に、なかなか定着していないではないかと、そうならないように絶対にしなければならぬと思っております。そのことをしっかりこの中でご議論していただいて、われわれ行政として教育行政が前に進むようにサポートさせていただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

企画政策部長 渡邊 真一郎

それでは次第3、協議に移ります。ここからの進行は大村市総合教育会議運営要領第3条の規定によりまして市長が行います。園田市長、よろしくようお願いいたします。

大村市長 園田 裕史

それでは、まずお手元の式次第の資料にもございますが、協議事項の(1)新型コロナウイルス感染症に伴う今後の対応について、でございます。こちらにつきまして事務局から説明をお願いいたします。

学校教育課長 橋口 智秀

お手元に B4 横長の令和 2 年度の大村市立小・中学校年間行事予定という資料、それから今後の学校行事等の予定という二つの資料をご覧くださいと思います。新型コロナウイルス感染症対策につきましては、これまでの臨時休業等を含め対応してきたところでございます。先般 5 月 22 日には文科省からは「学校における新型コロナウイルス感染症における衛生管理マニュアル」というものが示されています。それをもとに今後、学校におけるスムーズな再開ができますように細心の注意を払いながら取組んで参る所存でございます。その中で今後大きく変わるものとして、各種行事がございますので、ひとつの協議題としてお示しをさせていただきたいと思っております。1 年間のカレンダーと見比べながらご覧いただきたいと思っております。まず、4 月 12 日に三鈴運動会とございますが、本年度はすでに中止となっております。4 月 16 日木曜日の全国学力・学習状況調査及び県学力調査が予定されておりましたが、これはいずれも中止または延期となっております。県学力調査に関しましては 7 月に実施予定と書いてありますが、これについては、はっきりとした通知はまだ来ておりません。あくまでも予定ということでご認識いただければと思います。それから 5 月 24 日春の運動会、これもお示ししております小学校が予定をしておりましたが、いずれの小学校も秋の 10 月 4 日の日曜日に運動会を予定しております。それに伴いまして市内全ての小学校が同日に運動会を行うということになります。中学校の運動会につきましては 9 月 27 日の日曜日に実施の予定です。次に 5 月 30、31 日に大村市中学校総合体育大会を予定しておりましたが、先般ニュースでもありましたように、県の中総体が中止になったということがありまして、大村市独自でこういう大会が出来ないかということで現在検討を進めているところでございます。一応未確定ということで、6 月 27、28 日で入れておりますが、両日だけではな

くて、この日の開催も含めて 3 密を避ける、熱中症対策等々を含めたかたちで一番望ましい運営が出来ないかということで検討を進めているところでございます。次に 6 月の末から 7 月の初めに「長崎っ子の心を見つめる教育週間」というのがございました。これは本年度から土曜日授業を 1 日組込むという計画でございましたが、県の方から「長崎っ子心の教育週間」については、10 月から 11 月の方に移動をさせて下さいという通知がきましたので、それに従って各学校計画を練り直しているところです。今年度から実施の土曜日授業につきましては、見送るということで進めております。7 月 20 日に 1 学期の終業式を行う予定でしたが、先ほど市長の方からありましたように、7 月末の 7 日間を授業日として設定いたしましたので 7 月 31 日金曜日を 1 学期の終業式として実施をする予定で進めております。それから 7 月 25、26 日の県中総体につきましては中止となりました。8 月につきましても、九州中学校総合体育大会、吹奏楽コンクール県大会、全国中学校総合体育大会、吹奏楽コンクール九州大会、マーチングの大会もございますけれども、いずれも中止ということで連絡が入っております。11 月になりますけれども、大村市内の小中学校音楽祭、中学校音楽会を開催する予定でしたが、どうしても音楽の授業を確保しながらの練習になりますので、ここも授業時数の確保、練習時間の確保を考慮したうえで、また合唱ということになりますと新型コロナウイルス感染症対策の中で大声を出しての発声は望ましくないということで、現時点で中止と学校に方向性を示しているところでございます。それと特別支援学級のチャレンジド運動会というものも同じ理由で感染予防のために今年度は中止ということで進めています。欄外に書いてありますが、健康診断、歯科検診、心臓検診などは年度の初めの 6 月までには実施をするようになっていりましたが、これも医師会、歯科医師会と相談させていただきまして、10 月以降に実施ということで今のところ調整

をしています。6月下旬の中学校の期末テストも7月末まで授業日を設けるということになりましたので、1学期の期末テスト、これも延期を含めて現在、各学校調整を図っているところでございます。以上で説明を終わります。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございました。それでは今までの点を教育委員の皆様からご意見、ご質問等ございませんでしょうか。何でも結構です。中嶋委員どうぞ。

教育委員 中嶋 剛

市の中体連については、6月27、28日で開かれるかもわからないということですね、まだ確定はしていないということで、どちらが強いですか。

教育政策監 西村 一孔

やる方向が強いということで聞いております。

教育委員 中嶋 剛

分かりました。いわゆる体育関係については、中体連である程度は、今の3年生も良かったかななるわけですけれども、一方、吹奏楽部については、部活動を一生懸命やっていますので、この子達の発表する機会というのはどういうふうにして保証するのかなと。確かに3密の中のひとつですから、非常に難しいと思うのですが、この点で何か知恵が絞れないかどうかということですか。

教育政策監 西村 一孔

確かに今委員がおっしゃったように、吹奏楽コンクール全ての大会が中止になっています。吹奏楽部の子達は本当に一生懸命練習しているわけで、何とか3年生の活躍の場を持たせたいという気持ちはあるのですが、その中で大村市内に吹奏楽部があるのは5校なのですが、毎年3年生の卒業前に定期演奏会というのを、さくらホールを使って開催しております。ですから吹奏楽部の子達にとってはそこで3年生の活躍の場を見いだせばなと思っていますところなんです。当然、例年通り会場いっぱいにお客さんを入れるということはなかなか難しいと思いますが、状況等をみながら、入場制

限をしながら出来れば開催をしていきたいと考えております。

教育委員 中嶋 剛

分かりました。年度末に行われる定期演奏会をそれに変えたいということですね。その点でもうひとつ、結局、顧問さん達の意見といたしますか、そういうものはどういう風にして聞かれたのでしょうか。

教育政策監 西村 一孔

顧問の先生方に直接は意見を聞いていないんですが、恐らくコンクールが中止になるというのは、予測されたのではないかなと思います。今、定期演奏会をどうするかは、恐らく顧問の先生方も悩まれているんじゃないかなと思うんですが意見を聞きながら出来れば3密を防ぐという形で実施していただくような働きかけをしていきたいなと思います。

大村市長 園田 裕史

その件につきましては、早い段階で教育委員会の中でも協議をされていたと思いますし、私からも市からとしても要望をして、遠藤教育長も体育会系なので、是非実現して欲しいということで、まず中総体については話をしてもらっています。決定された時に決定されると思うのですが、中学校の校長先生達の話はされていると思うのですが、先ほど課長から渡された日程なのですが、3密を回避するような日程の調整ができれば発表されるのかなということで私も楽しみにしているのですが、そういったスポーツ、運動の発表の場は中学3年生にとって最後の大会が出来るようにということなので、少しはありがたいことにシーハットがありますから屋内競技もしっかり素晴らしい環境で大会が出来るんじゃないかなと思っておりますので日程が固まり次第ご報告させていただきたいと思います。我々からも是非そういった要望を言っていますので宜しく願いいたします。それと吹奏楽部についても、これだけ熱心に取り組んでいただいて実績をあげていますから、可哀そうで、

可哀そうで残念だなと思っていて、これについても事前に話をしてくださいと私からもお願いをしていました。定期演奏会というのが集大成でということもあるのですが、今まで聞くとところによると、西大村中学校とか桜ヶ原中学校とか大村中学校とか、九州大会、全国大会にいていた学校が、最初の大会は中地区であるみたいなんです、大村であるわけではなくて中地区であって、県大会、九州大会となるようなんですが、中地区での開催がなかなか難しいでしょうから、大村でもなかなか難しいねということがあったので、そこは集大成の発表がということで、あとは役所として私が言っているのが、例えばコロナが落ち着いていてグルメのイベントとか、ボートのイベントとか何かのイベントが開催出来る状況になれば、市としてイベントが開催できる時には是非積極的に市内の吹奏楽部の子ども達に出てもらおうではないかと、そういう発表の場があれば良いなと思っていますので、そこら辺はこちらとして企画できることかなと思いますので、そういった機会をたくさん作っていければ良いなと思っています。

教育委員 嶋崎 真英

今日の日経新聞に、スポーツの地方大会についての指針をスポーツ庁が出される旨の記事が掲載されていました。これは、高校生が対象のようですが、自治体の小中学生に関しても恐らくその方針に沿ったものになると考えますので、是非、文化活動も含めて積極的に取り組んでいただきたいと思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。教育委員会の紹介ではないのですが、昨日ちょうど嶋崎委員が言われましたとおり、長崎県として高総体の代替の大会、それと他の競技種目についても高総体の代替の大会をとということで新聞に出ていましたけれども、これも大村市にも体育協会というのがあって体育協会の中で高校生についてもいろいろな形で開催が出来ないかと言うことで事前に話をされていた

ようで、ここについては県立高校がまず市内に3つ、私学が向陽さんが1つあるので、その競技団体の内容によっては、市で行うもの、競技によっては中地区で行うもの、こういった形で高校生の大会についても考えてあるようなので、是非スポーツ庁から支援をいただいて、これは県とか体育協会と連携をしながらと思うのですが、大村市としても全力で場所とか応援をしていきたいと思っていますので、宜しくお願いします。他に皆さんありませんでしょうか。

教育委員 前田 愛

小学校、中学校の修学旅行と、小学5年生でいえば毎年宿泊学習があるのですが、その辺はどのようにお考えになっていますでしょうか。

学校教育課長 橋口 智秀

修学旅行、宿泊学習につきましては、今のところどの学校も10月、11月ぐらいに組んでおりますのでその線で調整をしているところです。ただし今後の状況によっては延期になったり、中止になったりすることはあるかと思えます。ひとつ注目として旅行会社の方にいつまでであったらキャンセルが出来るのか尋ねたところ、ほとんどの業者から1か月前から1か月前に連絡してもらえればという話も伺っております。ここはまだ不確かな状況があると思うのですが、その方向で調整を進めています。以上でございます。

大村市長 園田 裕史

宿泊訓練もですよ。

学校教育課長 橋口 智秀

はい、宿泊訓練もでございます。

大村市長 園田 裕史

他に皆さんないでしょうか。新型コロナウイルスに伴う学校の行事等々について。

教育委員 嶋崎 真英

修学旅行について、大体予定はいつなんですか。計画時期は。

学校教育課長 橋口 智秀

10月中旬から下旬にかけてです。

教育委員 嶋崎 真英

いまおっしゃった時期に県域を出る修学旅行を行うのは、非常に厳しい可能性もあるかと思えます。例えば、県内のいろいろな文化施設を活用して長崎の文化や観光施設を再認識する、スクールプログラム等も意義あることかと思えます。長崎県も県内宿泊に対する補助金を出していただけるという話もありますので、宿泊を伴った総合学習や社会科見学等も検討に値するかと思えます。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。たまたま次男が中学2年生で修学旅行に行くんですが、息子たちは壱岐市に体験の修学旅行の予定だったのですが、多分大村市においても学び、体験的な修学旅行に数年前から変わっていきまして、ちょっとそこら辺を教えていただければ。

教育政策監 西村 一孔

私も昨年まで西大村中学校に勤務しておりましたけれども、昨年度の修学旅行は、今市長がおっしゃったように壱岐に行って参りました。長崎県は島が多いんですが、大村の子ども達の中でも五島に行ったことがないとか、島に行ったことがないとかが非常に多くて、初めてのことであったのですが魚釣り体験ですとかイカの一夜干し作りとか、そういったものを体験したんですが、本当に生徒は喜んで盛り上がりまして楽しんでもらえました。そういった体験型の修学旅行とかは増えていくのではないかと、単なる観光地を巡るだけの修学旅行ではなくて、現地に行って職場体験みたいなものをさせてもらうとか、例えば福岡辺りにいかないと大村では体験できないような仕事について体験させてもらうとか、そういったプログラムを各学校で工夫されているのではないかと考えています。

大村市長 園田 裕史

是非、出島も活用いただければと私も思っています。大村だからこそ長崎港の開港とか、ちょうど今年が450年ですし、あえて言いますと長崎港

を開港したのは大村藩ですから、是非そういったところを子ども達の知る機会になるのかなと思っておりますので宜しくお願いします。

教育委員 中嶋 剛

もうひとつ良いでしょうか。10月13日に予定されている小学校の体育祭、これについてはまだ未定ですか。あるいは確実にやるということでしょうか。

学校教育課長 橋口 智秀

今のところ実施する予定で進んではおります。今後の状況によっては、中止になろうかと思えます。

大村市長 園田 裕史

他に皆さんからありませんでしょうか。学校は再開になっているんですけども、特に3月4月の休校期間中に保護者や子ども達とか地域の方々から、こがんことは大丈夫とやろうかとか、聞かれないことがあればまた教えていただいたり、あるいは学校再開になっていますし、7月の夏休みを使ってということになりますし、そこら辺がまたあったりしたら情報をいただければと思っています。当然、教育委員会にも役所にも休校期間中にちょっとストレスが溜まって精神的にきつくなった子供とか、親御さんもそうかもしれませんけれども、そういったことがあったかと思えますけれども、その他いろいろな情報をまた教えていただいて、フォローしていければと思っていますので宜しくお願いします。他に宜しいでしょうかね。

教育長 遠藤 雅己

大村の教育委員会の方では、早くに取組をしております。特に学期は30日に、これは教育委員会独自で決めたものではなくて、本当はこの後の定例教育委員会での先決事項でお諮りするのですが、校長会からも早く授業日数を決めたいということで来ましたので、現場の先生のご意見を充分汲み入れ、市長と相談して31日まで行うこと、そして保護者の方が困らないように延長期間についても給食を実施して子供たちを午後学校の方で預か

らせていただくということでもあります。2 回の休業期間がありましたので何かとご不自由を保護者の皆様にもお掛けしていると思いますので、そういう面でも長く学期を延長していきたいと思っています。もうひとつ特徴的なのは、今年はプールの水を入れません。各小学校、中学校のプール方では今年は更衣から水泳に入るまでの一連の関連がコロナ感染上、どのような状況になるか解りませんので、プールを使用した授業を今回は止めておこうと思います。

もうひとつお礼を申し上げておかなければならなかったのですが、学校給食が本年度から公会計化になっておりますので、市長部局のご支援の元、これが全部各家庭からの学校を経由せずに、それぞれに給食センターの方に振込むようになされていますので、我々教育委員会、特に教職員の手を煩わせずにそれが出来るようになったというのは、働き方改革上大きな前進でございますので、市の方には本当に感謝したいと思っております。以上です。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。あと、この議題(1)につきましては皆様からありませんでしょうか。

それでは続きまして報告事項(2)GIGA スクール構想についてでございます。これにつきましては資料がたくさんありますけれども、まず事務局から説明をお願いいたします。

学校教育課長 橋口 智秀

いずれもカラー刷りの資料をご用意させていただいております。一部は縦長のもの、一部は横長です。縦長の方につきましては、国から示されております GIGA スクール構想に係る主なところを抜粋して掲載をしております。横長の方は大村市の GIGA スクールで実際どういうふうになるのかというもので示しています。

まず、縦長の方から説明いたします。一番上の方からですが、2018 年から 2022 年度の間で「ICT 化に向けた環境整備 5 か年計画」ということが国

から示されています。これは3 クラスに1 クラス分のコンピューターを整備していきましょうということで、地方財政措置によって全体の3 分の1を整備していきましょうと示されたものです。その下に GIGA スクール構想というのが昨年度末に示されておりまして、新型コロナウイルス感染症の関係で前倒しで整備をしていくということで、当初は3 年間かけて整備をしていく予定でしたが、1 年足らずで整備していきましょうということになります。その GIGA スクール構想の中身は大きく分けて二つあります。一つは(1)校内通信ネットワークの整備、二つ目が(2)児童生徒1 人1 台端末の整備ということです。(1)の方は校内 LAN、Wi-Fi 環境を整えるというものです。(2)の方が児童生徒に1 人1 台のタブレット端末を整備しますということになります。ここにつきましては、国庫補助で3 分の2 を国の方で整備負担をしますというような流れになっています。

次のページに参ります。次のページでは端末を整備するようになってどういうふうに教育が変わっていくのかというものをイメージとして示されたものが上のものになります。学びの進化、学びの転換を示していますけれども、これについては後ほど少し触れたいと思います。下の方にはございますが GIGA スクールによって新しく ICT 環境を整備するとこれまでと一番違うのがやはり高速・大容量の通信が可能になってくるということになります。クラウドを活用して集中管理によって管理も楽になりますし、災害等にも強いデータ管理が可能になるといったところからこれまでの従来の学校のパソコン整備とは大きく異なって参ります。

次のページになります。今回、児童生徒用のタブレット端末ですが、大きく分けて3 種類基本的には用意されています。モデル例 1、Windows OS 端末、モデル例 2、Chrome OS、モデル例 3、iPad OS、というように OS の種類によって分けられておりますが、長崎県の場合は共同調達ということで県内の市町がそれぞれ、どの OS が良いのか意見を出

しました結果、モデル例2のChrome OSの端末を県内共同調達ということで県内整備を進められているところがございます。従いまして大村市の子ども達は、Chrome OS 端末、グーグルという名称を聞かれたことがあると思いますが、グーグル系の端末になっております。

次がGIGAスクール構想の加速による学びの保障、これが3年計画が前倒しで加速的に整備をしていきますということが示されたものでございます。

次のページになります。整備の一環としてこの新型コロナウイルス感染症でもありましたように、在宅で学校の授業を受けられる遠隔授業の実現を目指すというものも盛り込まれています。各家庭でWi-Fiの環境が「ある」「ない」とがございますので、Wi-Fi環境のない家庭につきましてはWi-Fiルーターをお貸しして、また通信料も市の方が負担しながら子供達の学習環境を保障していく、そういう制度でございます。その下の方は1年間で実施するスケジュールをカレンダー上に示したものです。

次のページでは実際にGIGAスクール構想の結果どういう授業が展開されるのかというのが示されたのが次のページと裏側のページになります。ここについてはもう一枚の資料の方でご説明いたします。では次に横長の方をご覧ください。

大村市GIGAスクール構想ですが、キーワードとしましては、「21世紀型能力の育成」「アクティブ・ラーニング」「学びのSTEAM化」「学びの個別最適化」こういったことになろうかと思えます。児童生徒が個別の学びを深める場面や互いに学び合ったり教え合ったりする協働学習の場面で、大型提示装置(デジタルTV)やタブレット端末といったICT機器を活用することで、自律的かつ協調的に学習する態度を養い、21世紀型能力の育成を図る、ということを目指しています。タブレット端末につきましては、小学校1年生から中学校3年生まで全児童・生徒にひとりに一台配備する

ということになっております。運用開始(予定)としていますが、今後の手続き、実際のタブレットPCが予定通り入ってくるということを想定して令和3年1月には運用開始が可能になるのではないかと考えています。実際の授業場面ですが、大きく分けて三つに分けています。下に写真付きで掲示しておりますが、一斉授業の場面、個別学習の場面、オンライン学習(遠隔授業)の場面です。一斉授業につきましては、これまで同様、教師の方が子供たちに大きく拡大掲示をして分かりやすく説明をする、あるいは子供たちがそれぞれタブレットで書いた意見等を集約してそれを一つの大きなモニターに分割掲示してお互いの意思を共有すると、それによってさらに思考の深み合いを図っていくこととなります。一斉授業と個別学習の中間に当たるのが、班別活動になるかと思えます。パソコンを利用しながら教え合い、学び合いを図っていく、あるいは調べ学習で自分が調べたものを班の中で発表し合う、そういうアクティブ・ラーニング、あるいは主体的・対話的で深い学びに通じるような学習がここで展開されていくこととなります。個別学習につきましては、調べ学習、探求学習、ドリル学習というのが中心になっておりますが、最近ではAI型ドリルというものがありまして、個人の理解力に応じてコンピューターの方が判断をして、その子に最適な問題はこれですよといったようにコンピューターの方がその子にあった問題を提供してくれる。それで各個人の理解をさらに進めていくAI型ドリルというものが今後、展開されるんじゃないかと思えます。それから、オンライン学習(遠隔授業)につきましては、今回のような臨時休業の場合に非常に活躍するものになるだろうと思えます。学習だけに限らず、日頃の健康観察、毎朝の定期的な通信によってリズムが整った生活環境にも一役担うことができるのかなと考えています。持ち帰って自宅でタブレットを使用する場合には、これまでと同様の家庭学習における習得支援の活用もでき

ます。先ほど市長からご紹介のありました e ライブラリーの教材データをすでに大村市は準備しております。それを今まで以上に活用がなされるのではないかと思っております。それから病気等で自宅療養をしなければならない時にも、学校とこのように遠隔授業が行われる、あるいは不登校対策、現在どうしても学校に足を運ぶことが出来ない児童、生徒がおりますので、その子達とタブレットを通して繋がったり、あるいは学習を支援したりと言う風に考えているところです。

もう一枚の方は、本市が準備した資料ではございません。他の市町がこういう風な環境になりますとあったものです。他の市町の状況ではございますが、ほぼこれと同じような状況で大村市の場合も整備をされるということでございます。左上にありますのが、無線 LAN アクセスポイント、大型テレビ装置がございます。これはすででございます。左下にありますタブレット、パソコンを保管するところ、そして右側上になります、これはソフト的なものになりますが授業支援システム、子ども達に課題を配布したり、あるいは子ども達の解いた問題を集約したりそういう授業支援のシステムになります。それと、児童生徒 1 人 1 台の情報端末システム、こういう形で整備が進められていくということになります。以上でございます。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございました。GIGA スクール構想というのは耳にはされたことがあると思いますが、このコロナ禍の中で萩生田文部科学大臣が GIGA スクール構想を前倒ししてやるという発言だったり、吉村大阪府知事が完全にオンライン事業を前倒しでやるとかいうこともあって、全国ニュースで取り上げられています。

当然、教育長、教育委員会、また、学校の先生方の中でこの構想について協議されている中で、このたび導入、6 月議会の中で議員の皆様方にご意見をいただいきながらという形にはなりますが、私自身の考えを述べさせていただける、私自

身は GIGA スクール構想に反対ではないんですが、いろんな考え方があります。そもそも、ちょっと脱線するかもしれませんが、私自身も塾に行かなかったですし、二人子どもがいますけど受験に合格するために塾にやらなかったんです。要は塾に行かないと成績が上がらないとか塾に行けば成績が上がるとかという考え方が嫌だからです。塾が悪いとか言ってるわけではないんです。その前に自分がやるべきことをちゃんとやってそれ以上に習得したいということであれば塾に行くとか、この目標に行きたいからそこに到達するためにやりたいということであれば諸手を挙げて塾にもやりたいと思いますけど、それが基本にあって、GIGA スクールも同じように考えると、よく言う何か勉強に身が入らないからタブレットを買ってくれないかと、タブレットを買ってくれたら興味が湧くから勉強するようになると思うからタブレットを買ってくれとか。そういう話が各ご家庭でもあるかもしれません。今回のこの GIGA スクールでタブレットがあるがために興味が湧くことはいいことなんですけど、それがないとできないということは全然違うと思っていて、そこを子どもたちがちゃんと理解して学校の先生方がそのことを教えていただきたいことが第一点です。だから、逆に言うと、この休業休校期間中にいろんな保護者の方とか市民の方のお声があって、大村市は吉村知事が言っているようなオンライン事業とか学校と連携してしないんですかとか。今もですね学校の先生から課題のプリントがあって、インターネットで e ライブラリーというコンテンツがあってケーブルテレビでも流しているんですと。まず、これでも物足りないということであればというか、それも全部やってしまって、よりということであればいいけど、じゃ果たしてあの休校期間中にどれだけきちり子どもたちがやってできていてそれでも物足りないから e ライブラリーをどれだけの子どもが使ったか、ケーブルテレビをどれだけ見たか親御さんたちが見ようよっていただく

たか。3月4月は徹底的に確認をしようと思っています。単にタブレットがあった、オンライン事業があったらよかったということではなくて、今も使えるコンテンツは今もあるんだから。みんなそれを使いましたかっていうことは確認をしないといけないと思います。今あるもので出来る訳ですから、その部分についてもオンライン、タブレットを入れる訳ですから改めて子供たちにも教育現場にもそのことはお伝えして行って欲しいなという気持ちです。とは言いながら、今の子ども達が大人になって就職している時には、4割5割と今ある仕事がなくなってしまうと言われていて、そこでタブレットを使えないと、インターネット、コンピューターに詳しくないと仕事にならない、仕事に出来ない、つまり食べていけないということになっていくと、だからそのことについて知識を持って親しんでいくということが一方で大事だと思っていますので、そのきっかけにして欲しいと思います。特にこの横書きの中で言うと、個別学習、オンライン学習がもちろんあっていいのですが、とにかく特に期待するのが、一斉授業ですね。皆でタブレットを一台ずつ持って、クイズ形式でピンコンピンコンとやっていくのもいいけれど、一台のタブレットをグループで使って、皆で作り上げていく授業、こういった競争のような皆で作り上げるというような、協力して作るのか、こういった事を GIGA スクールの中でやれていけると素敵だなと、いう風に思っています。この中にはプログラミングとかもあると思いますので、是非そういったところに繋げて行って欲しいと思います。そうすると、大村市が目指す豊かな確かな学びに繋がるのかなと思っています。幸いなことに多分ですけども県立高校で全国初、大村工業高校が県内初の e スポーツ部というのを作っているみたいなんです。そういった工業高校も市内にあるのですから、プログラミングであったり、そういう新たな GIGA スクール構想だからこそ出来る、競争的な取組を進めて行って欲しいなと、

それと併せてこの縦書きの資料の中の 10 ページのところ文科省からの資料でびっくりしたのですが、10 ページの下のところスマート農業×数理、右の方に CASE/MaaS×数理とあるのですが、この CASE というのは、車社会が変わる、要は電動とかオートメーションとか、こういう車の在り方が変わるよというものです。MaaS というのは公共交通の在り方を抜本的に変えるという取組です。これは今、どこの企業も将来的にやろうとされていて、あのトヨタですら車を作る会社からモビリティカンパニーに変わるということを言ったり、あの世界的なソニーが車を作ると言ったり、グーグルが車を作ると言ったり、そういう世の中になっていっています。今、嶋崎社長もいらっしゃるので、長崎バスさんもこのモビリティ、バスの流通をいろんなことに繋げていくということで、ニュースでもよくでていますが「N+カード」というカードのシステムを使った流通体系に変えられていっています。これが将来的に子供たちが働くような世の中に繋がっていくことを考えると、とてもとても導入に当たっては色々な幅を持たせた世の中の変化、世の中の考え方、これが子供たちに伝わる、伝えなければいけない時代になっていて、そういうこと言うところちょうどコロナの時にテレワークだ、キャッシュレスだ、非接触型だ、それがまさに IT、IOT、テクノロジーを活用した世の中が変わって、子ども達もそれにこの2か月間触れ合った、イメージしたので、ある意味こういう機会は作り出せるものではないですから、これを機会に皆がどれだけ不便になったか、その不便さがタブレットを使ったり、IOT を使うことで解消されるよねということを分かりやすく伝えていてもらいたいなと、これだけ一生懸命に取り組んでいただいている教育委員会の皆さんなので、これは全国一斉に一人一台が始まるんです。だから全国一斉に始まるということは、全部同じ環境が整って、よーいドンということですから、濃淡と結果が自治体によって明暗が分かれるくら

い大きなことだろうなと思っています。是非ですね、5億、6億ぐらいかけて全部整備するということになってくると思いますので、これを是非皆さんの幅広い業界の中でこちらに来ていただいていますので、色々ご意見をいただいて良いものにしていただきたいと思いますので宜しく願いいたします。皆さんからご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

教育委員 佐古 順子

小規模校の合同授業で遠隔授業をなさっていると思います。ご説明をしていただきたく、願います。学校訪問をした時に先生や生徒がとても良いプレゼンを大型テレビでなさっていました。算数や数学の図形を描かれたり、グラフや表などの利用をされていました。今現在教室にある機器類をお知らせいただきたいと思います。

学校教育課長 橋口 智秀

まず、小規模校同士を繋げた遠隔授業ですが、6、7年前の当時、黒木小と東大村小学校をテレビ会議システムで繋ぎましてお互いに交流授業を行う取組を行っておりました。これも文科省の研究指定を受けながらということになるのですが、ここについての成果としましては、小規模校であるということ切磋琢磨して互いの意見を交換し合っただけで他校と意見交換しあう授業ができたというところがございます。現在はそのシステム自体が閉じてしまっていて、小規模校同士の交流はありません。また、このGIGAスクール構想が整備されることによって、ここが小規模校同士ではなく、大規模校同士、また同じ中学校区内の小学校や中学校同士でテレビ会議システムを通じて交流を深めるといったことが実現されていくのかなと感じているところでございます。現在、各教室に整備されている機器というところでございますが、基本的には大型の50から55インチのテレビが各教室、特別教室を含めて整備をされております。持ち運びできる教師用のパソコンも整備されて授業で使われています。子供たちのパソコンというの

は、パソコン教室に30台から50台を整備されている状況です。

教育委員 渡邊 敬

タブレットを用いた授業や色々な学びは良いと思うのですが、7ページの学びの個別最適化というところで、場所や時間の制約を受けないということなのですが、その辺が例えば一斉に集まらなくても家にいる子供も同じように受けられるのか、時間的にも別の時間に同じ内容を学べるのか、そういったところはどうかでしょうか。全体に集まってから学んだ方が良いところもあると思うんですが、個々での個別化、最適化をもう少し説明いただければと思います。

教育政策監 西村 一孔

このGIGAスクール構想とは、学習を個別にさせようということではなくて、一人一人の能力を見捨てないというか、言い方が間違っているかもしれませんが、一人一人の力に応じて学習を成立させていこうということで、それは学校で皆で集まって授業をする中で学校としては一斉授業が基本ですが、どうしても一斉授業で個人個人の学力差はついてきますので、その差をいかにして埋められるかというのが個別化という部分に入っていくんだらうと、今回のコロナで臨時休校があったものですから、オンラインの授業が大変注目されましたけれども、オンラインの授業はオンラインの授業でかなりメリット、デメリットがあるのではないかなと思っています。一方的に教師がどんどん課題をやっていって生徒がそれに答えるというような、一斉授業はそばに寄り添って教えるのと、画面上で顔を見ながらやるのでは、教師の負担がかなり大きいだらうと思います。あくまでもGIGAスクールで一人一台でやるというのは一斉授業の中で先ほど大村市GIGAスクール構想の中に取りましたけれども、班活動や個人のドリル、今までは一斉に同じドリルを皆でやっていたのですが、そのドリル学習も一人一人の力に応じたドリルを提供してやることのできる、そういった良さがで

てくると、そういう風に考えております。宜しかったでしょうか。

教育委員 中嶋 剛

市長さんが真っ先におっしゃったことは、私は大賛成です。今ある教育機器等をいかにして使っているか、これがなかなか教育現場として本当にそれが機能しているのかどうかということが私も疑問だと思えます。もう一つ私は、GIGA スクール自体のこういうパソコン類を全員に持たせるということは確かに必要ですが、それまでに各現場の先生たちは、休校のために遅れた授業、内容をどのようにして教えていくのか、これが汲々としていていると思えます。それをいかにして効率よく子供たちに教育をしていくのかということが真っ先に問われる問題だと思えます。このGIGA スクールは各小学校に1年から中学校3年までタブレット端末を与えると、およそ9,000名おりますので、これを全部に与える。一斉授業、個別授業、オンライン学習に使うんだと、では一体先生たちは、どのようにしてこれを使いこなせるのかという問題が大きく浮かび上がってきます。文科省は、新しい教育の情報化に関する手引書を作成すると、今年度中にと言っていますけれども、今だ作成はなされていませんね。まだ文科省から出ている手引きもない、という前提でどうするのか、これにはいわゆるこういうパソコン類をどう使うのかという指導員が必ずいると思えます。大村市としてはこの指導員等はどのように考えているのか。そしてもう一つは、学校におけるパソコンはこれでよいかもしれませんが、パソコンを家に持って帰ります。その時Wi-Fi やルーターは、各家庭全部にあるわけではありません。この時に無いところは学校の方で対応すると、いわゆる市の方で対応する。先ほどお話がありましたように、通信料も市で払いますよ、こういうことが出ておりましたけれども、本当にそれが出来るのかどうかですね。私は非常にスムーズにこれがいくのかと、今ちょっと危惧している段階です。

教育委員 鳴崎 真英

GIGA スクール、いわゆるICT 教育によって、子供たちの集中力が高まるという統計が出されているのではないかと思います。また、先生たちの校務も軽減されますので、ICT 教育の良い面はどんどん推進していただきたいと思えます。デジタル化はソフト面とハード面様々な問題がありますが、これからの5Gの世界において、クラウドサービスを含めたインフラの整備は、地域防災の観点からも不可欠だと思えます。また、先ほどMassとおっしゃいましたが、教育においても「as a service」を念頭に取り組んで行くべき時代になったと思えます。世界の中で日本が取り残されてしまうことが無いよう、自治体のサービスとして子供のうちからICT教育に取り組むべきではないかと思えます。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。今の件でまず中嶋委員からあった対応する学校の先生の状況、各家庭のルーター等の考え方について教育委員会からありますでしょうか。

学校教育課長 橋口 智秀

教職員の研修については、委員のご指摘のとおり今後の大きな課題になると捉えています。教育センターでの研修も今後計画されて実施されていくということを聞いておりますが、具体的にはまだ目に見えないところでございます。各先生の有効な活用の仕方の研修を重ねるものが必要になっていくと考えております。併せてサポートにつきましては、現在大村市にICT支援員1名の雇用をしておりますが、技術的なサポート、それから教材作成、授業自体のサポートを含めてどういう人員が必要なのかをあわせて研究をしていきたいと考えております。Wi-Fi の環境については、前半で説明しましたとおり、各家庭における調査をしているところです。Wi-Fi の環境がない家庭が、実際にどのくらいの数が出てくるのかしっかり把握をしたうえで予算化については今後検討してい

きたいと考えております。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。先ほど嶋崎委員の方からもありましたが、公共のサービスとしてどう考えるかということなのですが、行政サイドにコストが教育委員会の橋口課長からかなりプレッシャーがかかってくると思うのですが、まず各家庭でラン環境があるか、Wi-Fi 環境があるかをそもそも調査をしないといけないですね。それと、家に持って帰ってまでわざわざいわゆるオンライン、教育は学校で出来る、でもオンライン授業を家に持って帰ってまでする状況、コロナは別として、その計画を教育委員会として学校教育現場で立てられるかどうかはひとつだと思います。家に持って帰ってまでもしないといけないのか、した方が良いのかということであれば家でも使える状況で、家に持って帰る訳なので、家でテトリスとかしていたら駄目ですから、じゃどうするのかという話で、仮に家に持って帰ってより効果的な学習の習得に繋がるようになれば、まさしく先ほど嶋崎委員がありましたけれども、私としては公共のサービスを整えるという意味においては、我が家は大村ケーブルテレビがあるのですが、これはNTTがだめでも、QT ネットがだめでもではなくて、大村ケーブルテレビはケーブルインターネットなんですけど、これは大村市が出資している第3セクターなのです。ケーブルテレビは先ほど言った、教育長から提案があってケーブルテレビで授業を作ったとか、ケーブルテレビの中には防災の情報、それと偉人の番組、それを提供しているんですね。だから大村市が出資しているケーブルインターネットというツールがあるのですから、それを活用してご家庭でインターネットということになれば、単純にオンライン授業をするだけではなくて、ケーブルテレビから発信される防災情報、郷土愛を育むような番組、いざという時の広報の手段に転換されていくと思うので、とは言っても民業圧迫にならないような、そういったことは考えていか

なえればならないと、コストをかけてご自宅のランやWi-Fiを整備していくことになれば、そういったことを自分としては考えていきたいなど、それだけで終わらせるのではなくて、折角だったらあれもこれも使えるようなものがケーブルインターネットの中にもあるので、そこら辺でコストを考えていくかなと、ボヤっと思っているところです。

教育委員 嶋崎 真英

ケーブルテレビということでは、長崎ケーブルメディアが地域 BWA（広帯域無線アクセス）について、長崎市、長与町、時津町と協定を締結しています。大村市も防災を含めた公共サービスの点から、研究・検討されるべきではないかという気がします。ひいては、それが5Gにつながっていくと思います。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。嶋崎委員、今日は他の会議があられるので途中ですがありがとうございました。

自分としては、何が何でもケーブルテレビといっている訳ではなくて、折角だったらそういう考え方も良いのかなと思いました。たまたま今日、ケーブルさんからいつものテレビ番組表が送ってきたのですが、このくらいの値段なのかと思っていました。さっき、文科省からの資料に「CASE」というのがありましたが、これは、「C」が connected、「A」が automatic 自動運転、「S」が sharing、「E」が electronic 電気自動車、車業界がこういう風になっていっているということです。トヨタがモビリティカンパニーになると言っているのは、車を買う人が将来いなくなると、皆で車をシェアして、乗りたいときに使う、自分一人で使うのはもったいないから皆で一緒になって使う、そうすれば車を買うお金が個人に発生するのではなくて、皆でシェアすると、それで人の移動が簡単になると、そういう時代になるから車を売る産業では立ち向かわなくなるというような

ことをトヨタが考えて、先般NTTと合同会社を作って車を走らせる中で人々の動くデータを取って、このビックデータの中でサービスを提供するような会社になると言っているんです。本当にとてつもない世の中の変化になるので、そういったことを含めて子供たちはイメージして、世の中に出ていかないと、将来仕事がなくなるかもしれないので、どうですかGIGAスクールは、前田委員、保護者として。

教育委員 前田 愛

私自身がIT機器が得意ではないので、先ほど中嶋委員が言われたとおり苦手な先生もやっぱりいるんじゃないかなと思って、先生のサポート研修はしていただきたいと思うところです。後はケーブルテレビで授業があったということは全く知らなくて、なぜかといったらケーブルテレビの契約をやっていないので、結構周りに聞くとケーブルうちにもないよと言う方がたまたまなのかほとんどなんですね。休校中にこういうのがあったというのは全く知らなくて、あとeライブラリーは知っていました。ただ活用出来たかっていうと、出来ていないです。こういう時代なので昔ながらの授業ではなくて変わっていくんだろうなとは思っています。

大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。本当にうちもケーブルテレビがついていたから子供も見えていましたけれども、eライブラリーは本当に恥ずかしながら1回もアクセスしたことないんじゃないかなと、本当に恥ずかしい限りです。ただここから大事なことだと思っていて、知っていてやらないのは駄目だけど、一番我々として駄目だなと思うのは知らせきれていないということで、知っていたら使ったのとか、それは駄目だとか、やっぱり不足することになるので、そこは教育委員会だけではなく行政として周知、広報して進めていかなければならないということで、このGIGAスクールについては非常に関心が高いし、今後どういう形で

落とし込んでいくのかというのが非常に大切なことだと思いますので、そこら辺を含めて今後また皆さんから今日のご意見を聞かせていただいたので、行政として出来ることを考えていきますので、教育委員会の中でも揉んでいただいて、是非色々なことをご議論いただければと思います。時間もきましたけれども、皆さんから特にないでしょうか。教育長からないでしょうか。

教育委員 中嶋 剛

ちょっと違う話になりますが、先日の新聞に長崎大学の件がありました。新学部が移転する計画をしているということが出ましたけれども、それについての進展というのはあるのでしょうか。

大村市長 園田 裕史

5月22日に西日本新聞さん、5月23日が長崎新聞さんに掲載されていますけれども、いずれもあの紙面に書いてあるとおり、まだ公にこういうことを進めているとか、こういう段階であるとか、このぐらいお金が掛かるとかそれを発表するのに至っていないのが現実です。それぞれの新聞社さんで取材をされた中で、色々な方からの情報をもとに記事が書かれていますので、大学側としても市としても公式なコメントとしては、長崎新聞さんの中にあつたように、非公式で議論していることは確かですが、公に出来る状況にはありません。今後、出来たら発表しますということなので、私としても、長崎大学の河野学長にしても、そういう認識なので今しばらくお待ちいただければという風に思っております。関心も高いことですし、特に中嶋委員からもそういうことをやるべきだと昔から言っていただいていますので、その認識は十分に持っていますし、長崎新聞にも書いてありますが、私もマニフェストに掲げていて、何とか実現できないかということになってきますので、そういう風に大学誘致ということに取り組んでいきたいと思っておりますので、またご報告させていただきたいと思っております。

それでは時間もきましたので、私から進行、司

会を戻したいと思います。お願いします。

企画政策部長 渡邊 真一郎

それでは次第「4 その他」に移ります。委員の皆様から何かございませんでしょうか。無いようでしたら次回になりますが、8月19日（水）にコミセン大会議室にて開催予定をしております。協議内容につきましては、調整をさせていただきます。後日ご連絡を差し上げたいと思います。以上となりますが宜しいでしょうか。それではこれを持ちまして令和2年度第1回総合教育会議を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。